

証を刻む、友ならば...

岡本 悠

一点の曇りもない

昇と、厚の、友情とは、そんなものだ

昇にとって、厚とは、

空気のような、存在だった

厚にとっては、…

幼稚園の頃から一緒に、小学生で仲良くなって、別々の中学に進んでも、関係は続き、高校、大学くらいまで、だ

その後は、もう、お互い40歳になったが、会うことは1度もなかった

とにかく、よく遊んだ

野球をしたり、サッカーをしたり、ゲームをしたり…

学校にも、一緒に通った

愉快的な、仲間たちは、彼らを親友と呼んだ

言葉なしでは、語りきれない、何かがあった

厚は、ビーズが好きだった

昇は、尾崎豊などのほうに傾いていた

厚は、そういう昇を軽蔑していた

やがて 昇が、尾崎とおなじような、中退、などの生き方をすると、さらに拍車がかかった

しかし、今は、厚が、どんな職業についているか、知らないが、

昇が、精神科の薬を飲んでいることを知ったのか

厚は、薬剤師になる、と語っていた

昇は、野球が巧かった

厚は、そこまで巧くなかったが、いつも、2人であらゆる場所で練習した

サッカーも、2人にとっては、最高のエンジョイであった

2人はよく、プロ野球に足を運んだ

東京ドーム、神宮球場、千葉ロッテ、横浜、西武…

カタルーニャでは、メッシが活躍していた

バグダッドでは、イラクが戦争を壊した

2人は、働いた

マック、アルバイト、しかし、昇はすぐに飽きた

厚のほうが、現実向きの性格であった

同じ、血液型B型なのに...

それは、育ちのせいであろう

昇のほうが、甘やかされて育った

幾分、厚も長い髪をするようになっていた

髭も綺麗に整え

昔とは、別人のようになっていた

生きるということは、

そんなに、甘いことではないが

昇にとっては、青春時代は

暗い影が潜んでいた

厚は、俺には言わなかったが、

小学生の頃、あの綺麗な担任の先生を、愛していたであろう

幾分、尾崎の歌を、地で行っていたのは、

厚のほうではないか？

スキンヘッドのベッカムヘアが流行る頃、

日本では、サッカーが大人気だった

花火大会などを、企画するのは、どちらかというと厚だった

自転車にまたがり、

二子玉川まで、観に行った

フランクフルト

ラムネソーダ

浴衣のお姉ちゃんたちが、綺麗だった

西日本大震災というものが、起こる頃

俺は、本屋で働いていた

イチローなり、中田英寿なりが、騒がれていて

日本もとっくに、バブルがはじけていた

ユーラシア大陸では、貨物船が衝突して

何人もの人たちが、犠牲になった...

運転免許は、厚は、堅く、合宿生活で取ったようだ

俺は、免許は取ったが、運転は合わなかった、今もだ...

小学校の時、人気者のある女生徒がいたが、

俺も、厚も、やはり、気になっていた

お互い、そういうことは、喋らなかった

ふと、高校時代、草野球に、監督の俺が、その子をマネージャーに誘うと

厚は、嫌悪感を覚えた気がした

あの頃のみまで、染まって欲しくなかったのだろう

見も知らない男たちの中に、彼女が染まることを...

勇気をふりしぼって、一発殴りたかったが...

スイミングスクールなんかも、

厚は、軽々と、1級ライセンスを取った

俺は、8級ライセンスで、諦めた

俺が、突然、生真面目に、クラス委員長や、部活の代表に、立候補すると、厚は、嫌悪感を抱いた

そういうことは、妙に、貫いた、考え方だった

俺は、20歳で、同窓会があった時、頑固にも、小学校の同じクラスの間以外には誘わなかった

もちろん、違うクラスだった、厚も、誘わなかった

一匹だけ、知らない男が、紛れ込んでいたが...

蝶々結びができないと、走れないのと一緒に

さまざまな観点から、彼を考えると、真面目であり、いや、真面目だ

でも、俺も、真面目なんだ

でも、2人でいると、笑いが生まれる

駒沢公園、砧公園、ウォータースライダー...

さまざまな記憶の中で

彼が死んでいく

彼は云った

「いいよ、いらないよ」

「いいから、いいから」

「いいって」

俺は、缶ジュースを、渡した

すると、厚は、金を律儀にも返してきた

律儀というか、不愉快だったのだろう、そういう貸しが...

ウソが...

厚は、俺をなんとか、死の底に沈めたかった

俺が、作った、暗いCDアルバムには感想を言ったが

2作目を渡すと、もう嫌になって、返してきた

でもね、

厚もきっと、まだ、生き方がわからなかったんだろう

俺なんて、もっと、わかっていなかった



じゃあ、厚がビーズのライブを姉と行って楽しかった、最高だった、と、語った時、なぜ、俺を誘わないんだと思った

それが、厚の思うつぼだ

隠して、黙っているわけにも、いかなかったのだろう、その気持ちはわかるが...

屋久島に行ったと言っていたね

年に1回、海外にも行ったそうじゃないか

俺は、そんな話には、興味がなかった

うちに飼っていた2匹の柴犬を見て、こっちの犬はかわいいが、もう一匹はかわいくない、つまらない、といった、それは凶星かもしれない

そういうのは、今となっては、心から笑える

さしずめ、誘拐犯のような、哀れな、結末を迎えることになった

イギリスでは、サッチャー首相が、演説をおこなっていた

こうなると、もう...

友情とは、計り知れない、哀れなものだ

特に、男同士の友情など、たかが知れてる

今年の正月、実家に帰った、その時、厚の住んでいた家の前を通った、

あまり、変わっていない

こういう言い方をさせて欲しい

親友だとか、友人だとか、そんなことは、どうでもいい

だけど、

俺を、軽蔑した視線だけは、憶えている

俺が、「麻原彰晃が逮捕されたね」といった時、

そういうこともね、

俺が、場違いでトンチンカンなことを、言っている、証明や訓練になったよ

大笑いして、ごまかした時もそう、

まだ、何か言い足りない言葉があるとしたら、

神への感謝ではなく、

厚への、最後のプロポーズ

「完」